
勇者と魔王と一般人

白黒石 誠人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者と魔王と一般人

【Nコード】

N2093L

【作者名】

白黒石 誠人

【あらすじ】

とある世界。魔王が10年前に現れて、世界に魔物という存在が生まれた。

人々は自己防衛の為に、武具を装備。

戦争で戦っていた騎士団は、魔物討伐隊と名を改め、魔王が現れる前まで行われていた戦争は、一時中断となった。

そんな世界の中、一人の青年が、魔物退治に明け暮れていた。

第一話 過去の記憶

それはいつの日かの夢だろうか。見覚えのある景色。

友人達と公園で遊んでいると、ふと立ち止まった。

公園の片隅に見える一人の少女の姿。髪は短く、俯いたままだが、時折こちらに視線を向ける。

そして、僕が見ているのに気付いたのか、また俯いてしまう。

「カルマ、何してんだよ」

「うん……」

友人が声をかける。再び遊びに戻るが、それでもその後も、少女の事が気になった。

可愛いから。という理由ではない。

何か気になる。本当に、なんと言えいいのか分からないけれど。

「……ごめん、ちょっと今日は」

友人達に別れを告げて、僕はその少女の所へ向かった。

「ねえ、君……」

そこで気付いた。彼女に感じたそれ。

彼女の顔には、大きな火傷があった。服で体の部分は隠れているが、見えている頬は、右頬が焼け爛れていた。

火傷した後の処置が悪かったのだろうか。酷く痛ましい。

そのせいで、他の子達に仲間はずれにされていたのだろう。

「一緒に遊ばない？」

「.....」

少女は少し考えて、黙ったまま首を横に振った。

「どうして？」

「・・・皆、私が嫌いだから」

振り返る。そこには、先ほどまで遊んでいた友人が、睨む様子こちらを見ていた。

話しかけるな。相手にするな。でないと仲間はずれにするぞ。

そう言っているかのように。

それでも、何故だろう。僕の手は彼女に向けられたままで。

「だったら、僕と一緒に遊ぼうよ。二人でさ」

これが、彼女との出会いだった。

その頃の世界は、今とは全然違っていて。

その頃には、今みたいに、魔物や魔王なんていない世界だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2093/>

勇者と魔王と一般人

2010年10月9日06時14分発行